

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策
国語	知識及び技能	助詞を正しく使い分けたり、既習漢字を使わずに文章を書く児童が多い。生活体験不足からくる技能の差も大きい。	日常生活の中で、漢字も使い正しく文章を書かせることを意識させる。 学習した時だけでなく、ちょっとした時間でも学習をする場を設定する。(意味調べなど)
	思考力、判断力、表現力等	読解力不足とまではいかないが、読みが浅く、イメージを広げたり深めたりできない。 自分の考えをまとめるときに、何を書くかが明確にならず、書くことに苦手意識をもっている児童がいる。	想像力が広がるように資料提示や動作化を取り入れ、読みを深められるようにする。 自分の考えの中心を先に考えさせ、その考えのもとになる理由や言葉選びをさせる中で、文章にしていける力を身に付けさせる。
	学びに向かう力、人間性	自分の考えを意欲的に発表する児童がいる反面、自分では発表しないことに慣れている児童もいる。	友達の考えを聞くだけでなく、自分の考えを書き、小グループで伝える場面も設定し、話し合いに慣れさせていく。
社会	知識及び技能	知っていてすごく興味もてる児童と知らなく聞いているだけの児童の差がある。	知識・技能は確実に習得するために、各授業時に反復練習で身に付くように指導する。また資料活用能力を養うために資料を使った授業を計画する。
	思考力、判断力、表現力等	自分の考えを表現したり、うまくまとめられなかったりする児童が多い。また、地図は読めるがそこから発展することが難しい。	児童に「なぜなのか」と問題意識をもたせて、資料を選択して活用しながら理由を考えさせて解決するよう指導する。
	学びに向かう力、人間性	興味をもって取り組んでおり、自分の身近な生活と絡めることができている。	児童に問題をもたせて、体験学習や見学を通して、より自分の身近な生活と絡められるよう指導する。
算数	知識及び技能	計算などの基礎、基本が定着していない児童がいて、力の差が大きい。 技能の高い児童の中でも、間違えずに解くことは苦手である。	レディネステストを通して既習事項を復習したり、補教したりする。時刻と時間など定着しづらい内容は、日常生活に結び付けて意識させる。 ふだんから集中し、ミスを減らすように声をかけ、目標をもち解かせる。
	思考力、判断力、表現力等	既習内容を組み合わせ、考えていくことに不慣れで、どう考えてよいか分からなかったり、理由をつけて説明できる児童が少ない。	考え方や着眼点などについても学ばせ、学習の理解を深めさせる。図、絵をつかって自分の考えをかく力を身に付けさせて思考力を高める。
	学びに向かう力、人間性	習熟度別の指導のため、自分の力に沿った学習ができて、目標をもって学習に取り組む児童が多い。	自分の考えとの違いや友達の考えの良さに目を向けさせ、新たな考えに広げたり深めたりする機会をつくる。
理科	知識及び技能	2年生の時から観察を続けているため観察力は身に付いている。学習内容も実生活と結びついており、理解することができている。	より知識を定着させるために、正しい用語や用具の使い方などを指導する。観察結果と理科的用語を結び付け定着させていく。
	思考力、判断力、表現力等	植物や動物の飼育などにおいて、次のように変化するか様々な予想を立てる発想力はあるが、結果から考察をするなど思考力に苦手を感じる児童がいる。	観察や実験の考察・まとめの段階で教員がキーワードを提示し、それをもとに自分なりの言葉でまとめられるようにする。表現力不足の時もあるので、適切な表現になるようにしていく。
	学びに向かう力、人間性	学習に対する意欲・関心は高い。発言を積極的にする児童と消極的な児童に分かれている。	発言を促すために少人数のグループで話し合う場を設定し、発言の機会を増やししながら、意見や考えを交換できるようにしていく。

音楽	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの授業における知識は理解できているが、実技の技能には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を有効に使用して、反復練習をなど行い、児童に習得させる。 ・リコーダーの技能が追い付かない児童は、個別に声かけをして、指導する。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中で思いをもって表現することはできるが、思いや考えが浅い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で教師がたくさん例を示し、児童の中に表現の幅を広げていく。 ・友達の意見や考えを紹介して、様々な考え方を共有させていく。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなことでつまずいたり、思っていることと違ったことが起こったりすると、意欲をなくしてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな活動の一つ一つほめるようにする。毎回の授業の大きな流れをつくり、途中で意欲をなくしても、また切り替えて児童が臨めるようにする。
図画工作	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・安全にのこぎりや金槌を使って木を切ったりつなぐことができる。技能には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った題材を提案し、仕上がらない児童は休み時間等を使って個別指導をする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことを材料などから発想を広げて工夫して表すことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入や授業の流れを工夫して楽しく発想を広げる手がかりをつくり、一人一人の発想の良さを認める。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。思ったように表現できないと意欲が急に低下してしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の合間、個別に励ましの声をかけたり、鑑賞の時間を設け友達同士で認め合えるような雰囲気をつくる。
体育	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの積み重ねにより、ある程度はできているが、得意な児童や苦手な児童に分かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚作りの運動や体づくりの運動を行い、少しずつ種目に慣れさせていって、楽しく運動できるように指導する。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の使い方や運動の仕方を工夫しようとする児童もいるが、運動が目的となり工夫を考えるまで至っていない児童も多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教師が作戦や、レベルを分けた運動の場を用意し、児童に自分はどこが合っているのか考えさせて選択させる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・体育は好きだが、ルールやマナーを守れない児童や体育自体があまり好きでない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の安全な扱い方や、順番やルールを守ることでみんなが心地よく運動できる良さを指導するとともに、運動が苦手な児童も取り組みやすい活動を計画する。(カードなどできっかけを作り、自分から運動に取り組めるようにする。)